

結構 意外な(?)乗り心地 だったらしい 満足しきった顔で真ん中に

みなさんの手元に、まだ「JR東海」1月号はありますか？ なに、すでに in the ゴミ箱ですか。残念です。でもその辺りに落ちているかもしれませんので探して是非とも見て下さい。

4ページの「CJR Interview」に葛西会長へのインタビュー記事が載っています。なかでチョット気を引く箇所を紹介しましょう。

平成21年に対して、「…こうした激動期にこそ、当社は右顧左眊することなく、安全・安定輸送の確保という輸送業務の本義に邁進すべきだと思えます。安全・安定輸送の確保は、社員の高い士気、厳正な規律、高度な技術技能錬度を引き続き磨き上げ…」と自信たっぷりに応えています。

まずは「右顧左眊」。意味はなんとなく分かる気がするが、読み方は多分「うこさべん」だと思えます。そして「士気」。志気ではなく士気です。軍隊好きな指揮官としての一面がよく出ている表現です。

(憶測ですが、聞き手の沖健太さんがインタビューを文書化する時に「志気」としたかもしれません。それを見た会長が激怒して訂正させたか、あらかじめ会長が「士気」だぞと言っておいたかですね。それとも阿吽^{あうん}の呼吸でしょうか？)

軍隊といえば 7ページには 貴重な体験談が

表題の「SIDE TABLE」のことです。会長は昨年10月、陸上自衛隊東富士演習場を訪れたそうです。その時の様子を、少し遠慮がちで小さな記念写真入りで紹介しています。よお〜く見ると会長は前列真ん中に、気のせいかわ満足しきった顔で収まっています。よお〜く見ないと分かりませんよ。(注・自衛隊は軍隊ではありません)

「視察して感じたのは、戦車は乗り心地の良さ」「戦車に乗った際は、『左へ』『右へ』『直進』などと号令を出し、指示の出し方を体験しました。なお、戦車というのは狭いので前方の視界は悪く、歩兵がそばにいて一緒に動くのだそうです。国産戦車の高い技術と隊員たちの高い錬度に感心しました」と感想を述べています。

さぞかし、JR東海での「右へ」「左へ」と右顧左眊することのない「指示の出し方」に自信を持ったことでしょう。社員にはもっともっと「高度な錬度」を持たせようと決意をあらたにしたはずです。

「指揮すれば 規律と忠誠 思うまま」 C D 頑 爺